

平成27年11月8日
事業者説明会資料

藤沢型地域包括ケアシステムについて

福祉総務課 地域包括ケア推進担当

地域包括ケアシステムとは？

○団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される**地域包括ケアシステムの構築を実現していきます。

○今後、**認知症高齢者の増加**が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。

○人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、高齢化の進展状況には大きな地域差が生じています。地域包括ケアシステムは、保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、**地域の特性に応じて作り上げていく**ことが必要です。

地域包括ケアシステム

○新しい考え方ではありません！

介護保険制度の改正の遍歴

・平成18年

団塊の世代が、平成27年に高齢者（65歳）になることを見据え、介護保険制度全般を見直す

・平成24年

高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、日常生活を営むことができるように「地域包括ケアシステム」の構築に向けた取組を推進する

・平成27年

「地域包括ケアシステム」の構築に向け、具体的な取組の強化を開始する

ポイント（キーワード）

1. 社会の変化を把握

→ 少子化 + 超高齢社会の到来
（スピードが速い：世界のトップ）

2. 必要とされる社会

→ 一人ひとりに寄り添う

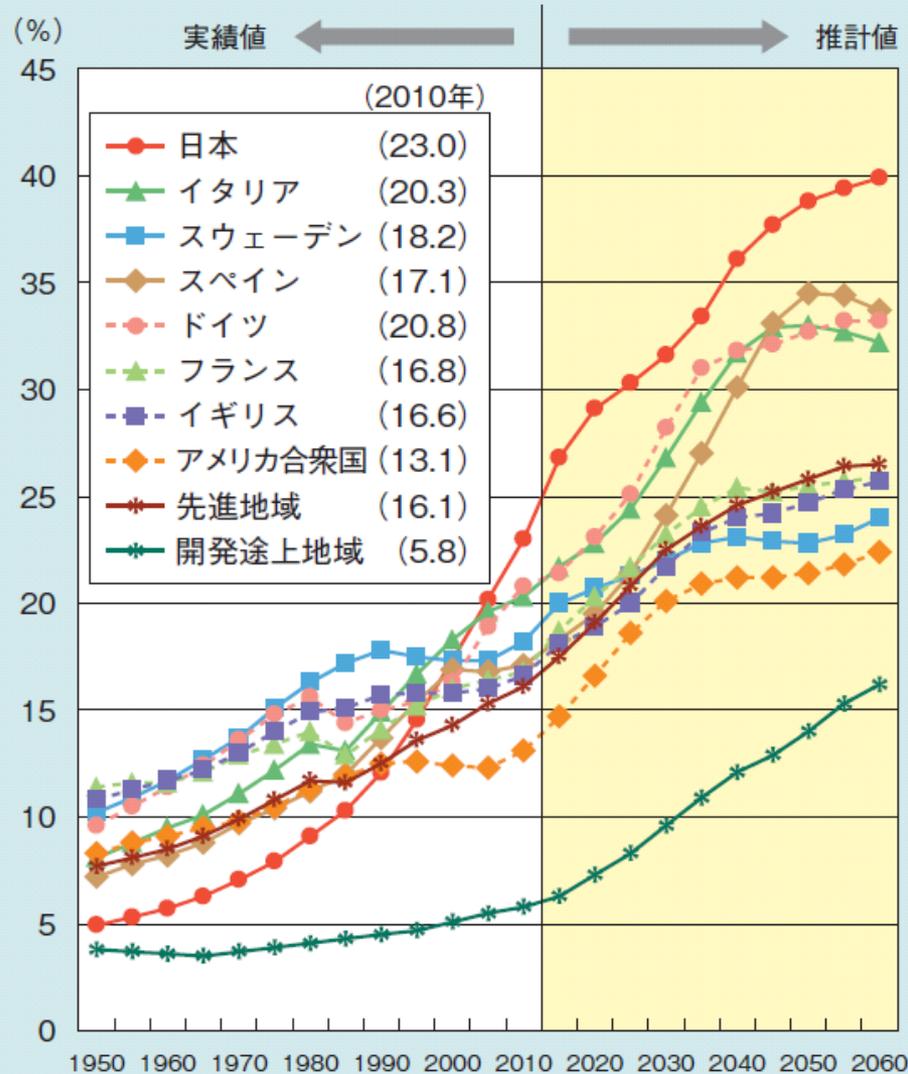
→ 住まいを中心に誰もが安心して
生活できる地域をつくる

3. 市民・事業者等・行政の協働

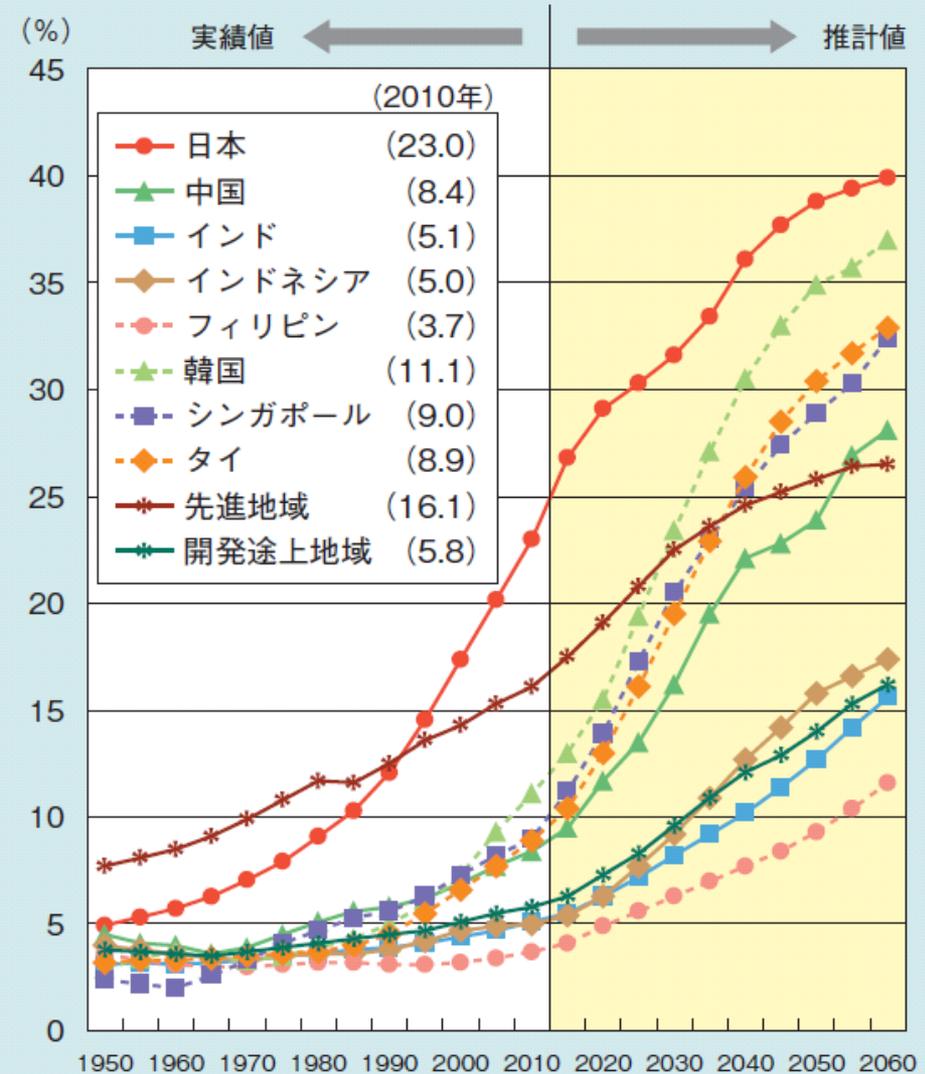
→ 人が互いに支えあう地域

世界の高齢化率(平成27年版高齢社会白書:内閣府より)

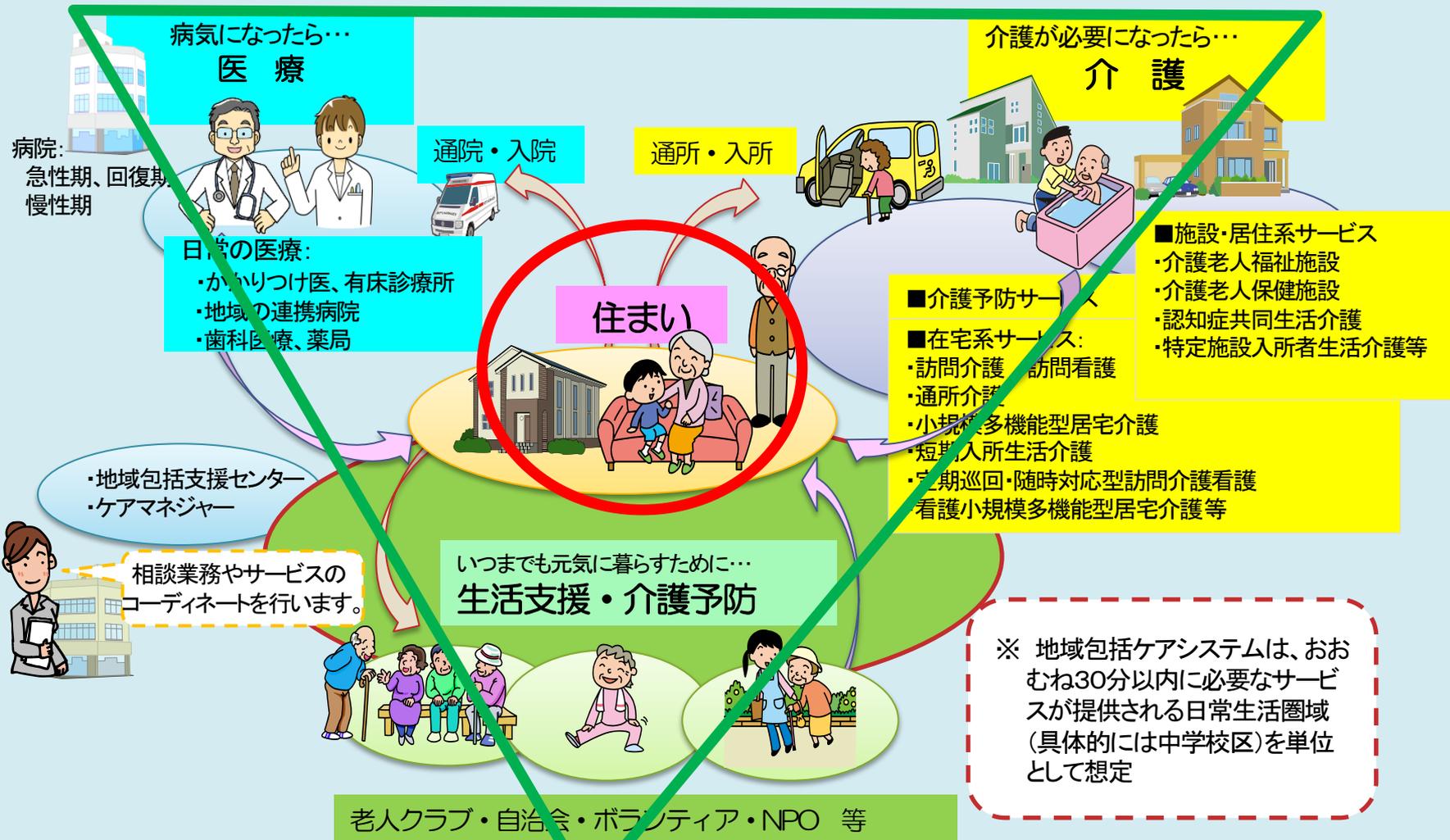
1. 欧米



2. アジア



国のめざす！地域包括ケアシステム



※ 地域包括ケアシステムは、おおむね30分以内に必要なサービスが提供される日常生活圏域（具体的には中学校区）を単位として想定

※高齢社会を支える視点で見た社会像

効果的に機能するための「4助」…

◎ 自分のことは自分でする ◎

健康管理を含め、日常生活において、できる範囲のことは自分で行う。

また、必要に応じて、民間サービスの利用を選択し、購入する。

(自らの選択・自己負担)



◎ 社会保険制度を活用する ◎

本人の状態に応じて、介護保険制度や医療保険制度などを活用し、介護サービスや、医療サービスなど、様々な保険サービスを受ける。

(保険料などの負担)

◎ 地域などで互いに支えあう ◎

地域での日頃の声かけや見守りから、ボランティアや住民組織での活動まで、日常生活において、住民同士で互いに助けあい、支えあいながら、地域で生活する。

(相互の自発的な支えあい)



自 互
共 公

◎ 行政などの公的サービスを受ける ◎

本人の状況などに応じて、行政が行う様々な福祉事業・サービスや、生活保護などの公的支援を受ける。

また、行政において、個人の尊厳を尊重するため、人権擁護に関する取組や虐待対策などを行う。

(税金による公的負担)



めざす姿・・・

超高齢社会を見据え、
「互助」の力を最大限に活かしながら、
高齢者の住まいを中心に、
日常生活の様々な場面において、
市民・事業者等・行政が一体的に
地域で支えあう体制

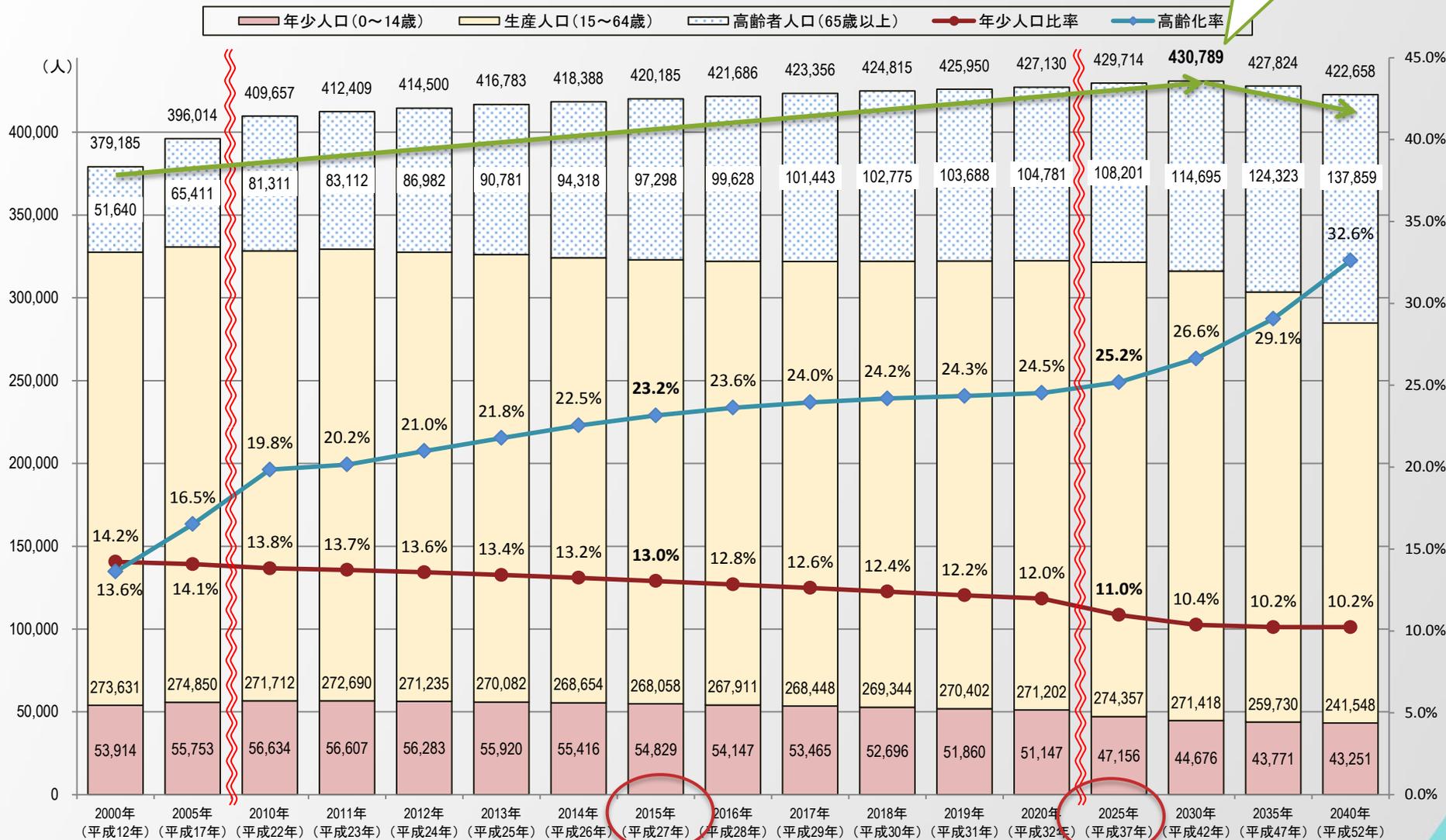


藤沢市では・・・



藤沢市の人口推計

総人口は
2030年がピーク



※ 2000年(平成12年)・2005年(平成17年)は国勢調査に基づく。各年10月1日現在。
 ※ 2010年(平成22年)以降は国勢調査に基づく推計値。各年10月1日現在。

新しい地域づくりに向けて

背景

少子化、急激な超高齢社会の到来
人口減少＝労働力不足

2025年～2030年に深刻化が予想される地域の課題

地域課題の増大・複雑化

- 例
- ・ 要援護者の見守り
 - ・ 災害時の助けあい
 - ・ 買い物弱者問題
 - ・ 子育て相談



地域との関わりの希薄化

- 例
- ・ 人間関係
 - ・ 自治会への未加入
 - ・ 役員の担い手不足
 - ・ 無関心

身近な地域との繋がり・地域での支えあい・助けあいを再認識

新たな地域づくりの仕組みの構築

“藤沢型” 地域包括ケアシステム …

子どもから高齢者、障がい者、生活困窮者等、

市民一人ひとりが、

住み慣れた地域で

安心して暮らし続けられるよう、

市民センター・公民館を中心とする

13地区の特性を活かし、

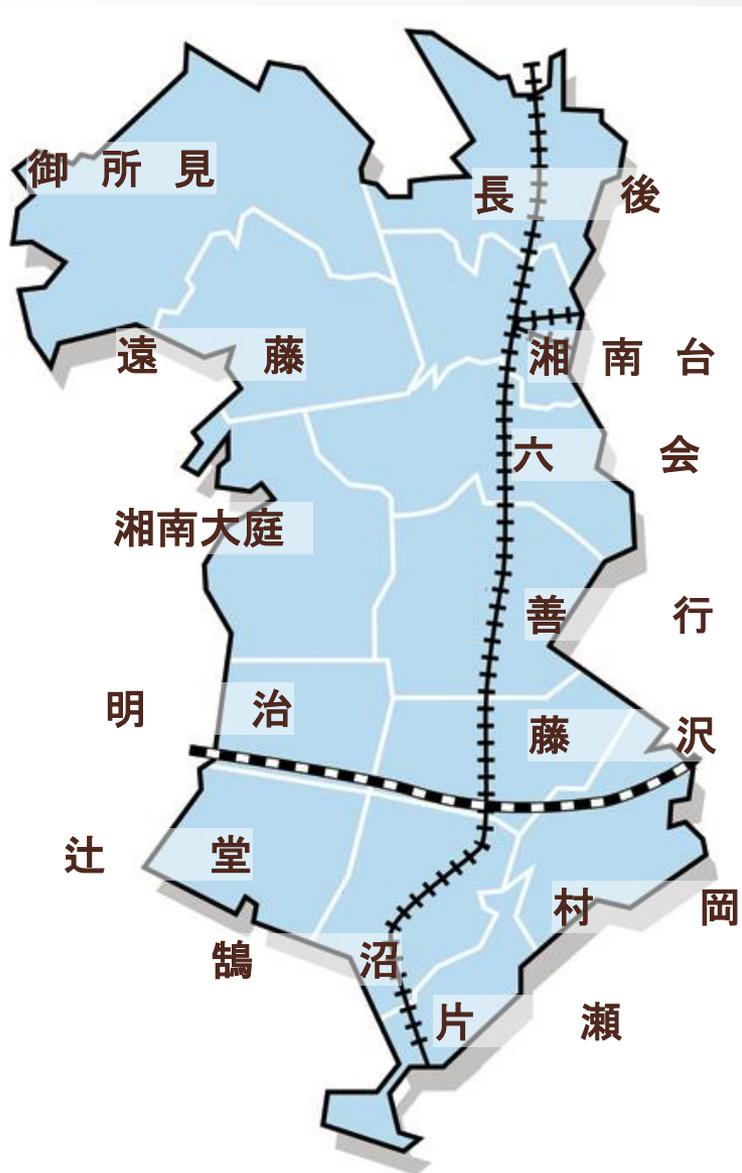
地域で活動する「**人・団体・企業**」を主役にした

「地域のつながり」を重視した

地域ぐるみの**支えあい体制**を構築する



13地区別人口推計（高齢化）



順位	2015年			2025年	
	地区 (65歳以上人口)	高齢化率		地区 (65歳以上人口)	高齢化率
1	湘南大庭 (9,013人)	28.2%	➔	湘南大庭 (10,900人)	36.2%
2	片瀨 (5,548人)	28.0%		片瀨 (5,546人)	30.5%
3	御所見 (5,548人)	27.2%		御所見 (5,250人)	28.0%
4	長後 (8,236人)	25.2%		長後 (8,450人)	26.6%
5	善行 (10,730人)	24.2%		村岡 (7,219人)	26.1%
6	村岡 (6,379人)	23.3%		善行 (12,011人)	25.4%
7	鶴沼 (12,823人)	22.9%		遠藤 (3,090人)	24.9%
8	辻堂 (8,612人)	22.3%		鶴沼 (13,936人)	24.1%
9	藤沢 (10,034人)	22.3%		明治 (6,764人)	23.6%
10	明治 (5,715人)	20.9%		辻堂 (8,702人)	23.2%
11	遠藤 (2,425人)	20.8%		六会 (8,323人)	23.2%
12	六会 (7,198人)	20.4%		藤沢 (11,037人)	23.2%
13	湘南台 (5,532人)	17.4%		湘南台 (6,972人)	19.3%

※ 2010年（平成22年）国勢調査に基づく推計値。各年10月1日現在。

“藤沢型地域包括ケアシステム”

現在は...

市役所
(関係課等)

第1層
(市全域)
生活保護
地区福祉窓口

第2層
(日常生活圏域)

医師会
歯科医師会
薬剤師会

地区
市社会福祉協議会



相談支援

医療

訪問診療を行う医療機関



福祉

市民団体
NPO



いきいき
サポートセンター

地域密着型サービス

生活支援



介護

地域ささえあい
センター

デイサービス

ケアマネ連絡会
等

民間事業者
等
地区ボランティア
センター



交流

ホームヘルプ

介護老人保健施設

地域の縁側

つどいの広場

健康づくり
予

各事業所連絡会

子育て支援
サークル

民間事業者等

地域づくりに

誰もが関わる！



“藤沢型”を推進するためのポイント

! 13地区の特性を活かした地域づくり

自治会と行政の協働

13地区の
市民センター・公民館を
基本エリアとして推進

お互いさまの精神
を基本とする
地域づくりへの
主体的な参加

13地区共通

地域特性

「地域の縁側」などを
中心とした通いの場

気軽に立ち寄れる
顔の見える関係づくり
を活かした人材育成

地域資源の活用

市民や
事業者・企業団体、
大学等の連携

庁内で多角的な検討を進める体制

(庁内横断的な検討組織)

[外部]

2025年問題対策委員会

連携

藤沢型地域包括ケアシステムの
構築に向けた庁内検討委員会

連携

藤沢型地域包括ケアシステム推進会議

(事業等の実施に関する体制整備, 検討等)

①

地域づくりに関する専門部会

- (a) 地域での相談支援体制に係る検討
- (b) 地域の担い手づくり、サービス等提供者の支援等に係る検討

②

「地域の縁側」に関する専門部会

③

子ども・子育て・若者に関する専門部会

④

高齢者施策・介護保険制度に関する専門部会
(介護予防・日常生活支援総合事業の制度設計)

- (a) サービスA・B、一般介護予防に係る検討
- (b) 利用手続き、指定事業者等に係る検討

⑤

在宅医療・介護連携に関する専門部会

⑥

認知症施策に関する専門部会

⑦

住まい方に関する専門部会

◆ 介護保険法改正に関する検討 ◆

もっとも重要なことは…

地域づくり

私たち

誰もが関わる

という意識



【まとめ】

○藤沢型地域包括ケアシステムの構築は、まさに「地域づくり・まちづくり＝人づくり」です。

○**将来的な地域の姿に正解はありません。**しかし、どのような地域の姿を描くか、どのようにその姿をめざすかは、**私たち一人ひとりが地域社会と真剣に向き合い、市民・事業者・企業団体等と行政が協働して地域と関わりの持てる仕組みづくりを考え、進めることが必要です。**

そのためには、「絆」「人の和」「地域の支えあい」を日頃から意識した**地域との関わり方や役割を考えた行動**が必要です。

介護事業者の強み！

- ① 専門職としての知識やスキルがある
- ② 認知症の人や家族の身近にいる存在であり、実態が把握できている
- ③ 何より、人を思う熱い心がある



認知症の人と家族が地域で
安心して暮らせる地域づくり